

# いわみざわ

発行 岩見沢駐とん地  
編集 岩見沢駐とん地  
司業 岩見沢駐とん地  
班務 岩見沢駐とん地  
報 岩見沢駐とん地

今月の行事  
4日・6日 持久走記念会  
13日・一般幹候一次試験  
15日・美唄身障者大会支援  
28日・日・群幹部現職  
28日・日・施車保安検査

## 岩見沢市日の出

### 中学校工事着工

岩見沢市日の出中学校敷地整地工事は、第三三七中隊が担当して五月一日から着工している。

作業隊長(浜田三尉)以下二十一名の隊員と、大型ドーザー五台中割ドーザー二台、スクレーパー二台の重器材を投入し、約七万㎡の重粘土と取組み、早朝から日没まで、七月上旬の完成を目指し、頑張っている。

日の出中学校

敷地整地工事

第三三七施設中隊では、群般命にもとづき、去る五月一日早朝、作業現場に無事進入した。二日には当地で起工式が行なわれ、これには札幌地連部長並びに岩見沢市長初め関係者多数が参加、

工事間の安全を祈願した三日から作業に着手、隊長以下張切つていたが天候我に味方せず連日雨模様で排水作業に専念し、出ばなをくじかれたが、六日には十三施群より大型ドーザー二台と石原三曹以下四名の精鋭を迎え、ここに作業隊の人員器材は全部集合を完了した。さすがのぐづついていた天候も七日からは見事な五月晴れとなり全員一丸となつて、七月上旬の工事完成をめざし、早朝から夜遅くまで悪名高い重粘土と

悪戦苦闘 隣接する日の出小学校児童生徒の声援を背に受けて勇気百倍頑張っております。



駐とん地の皆さんもどうぞ御声援のほどお願い致します。

#### 第三三七中隊 工事作業隊

我が隊が、今回交通三悪の一つである飲酒運転事故を起したことにより「反省と謹慎」の意味をこめて(三月二十五日から四月二十四日)の一月間車内事故防止特別強調月間とし、管外者は休職、飲酒及び私有車による通勤の自粛、管内者においては飲酒、休職、外出の自粛、又朝夕礼時機会教育を実施した、交通事故防止映画の上映、名寄警察署交通課長の講話の座禅も経験した。

月間を終えて

この様な一連の行事に対して他の部隊からそれ程厳しい処置を取らなくても、と言う声も聞かれたが、これは命令で行なわれたことではなく我が隊の全員で考え話し合った結果行なわれたものである。車は我々人間が発明開発した非常に便利なメカニズムではあるがその反面使い方によつては危険な走る兇器に変わりうるものである。交通戦争の真只中に生きる我々にとつて、交通ルールを厳守する

ことこそ生命を奪ひ争せを存続させる唯一の方法ではないだろうかこれも一人一人の努力と自覚を持つて事に当らねば成し得ぬ事であり、まして国民の生命と財産を守る義務を負つている我々自衛官にとつては、必要欠くべからざることはなからうか。

私は伝統ある第三〇一地区施設隊に所属し、十五年余に成り日頃から誇りと愛着を感じていたが、今回の事故により過去の傲しい教育訓練で勝得た数々の栄誉もすべて無に等しく成つてしまふ事も非常に残念ではあるが、しかし「災い転じて福となす」と云う諺もあるようにこの機会にもう一度、それぞれの立場において自覚反省し再びこのような事を起さぬよう自らを律した行動をしなければならぬ。

当然他の部隊は我々の一挙一動を注目することであろう。我が隊がこれに屈することなく如何に前進努力するかが、我々に課せられ尤大きな課題であり、この事を深く認識して努力する覚悟である。

#### 第三〇一地区施設隊

二等陸曹 鈴木 隆司

隊員の町内会での働き

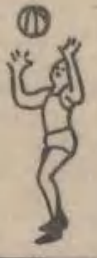
最近私はモニター依頼の業務で駐とん地をとりまく周辺の人々と接し、話し合う機会を得た。それは職務上有益であつたばかりでなく、隊員個々が町内会活動の中核をなし、会員の信頼のもとに、その活動の原動力になつていゝる事実を知り、私個人にとつても嬉ばしいことであつた。そのほとんどが町内会長といつた表立つた役割りでなく、縁の下の方力持ち的役割りを忠実、かつ誠実に実行しているという事であつた。

良い士じよりに良い作物が獲れるように、そりしたところに反勢力は生れない。部隊広報として数次に及ぶ部外支援もさることながら、町内会や市民活動を通じて行なう個々の働きが「実態を知らしめ、理解を深め、協力体制を確保する」偉大な力であることを感じた。

一人一人が広報マン、ということは常に聞かされる言葉ではあるが、地域社会におけるそれらの活動が「道民との一体化」に大きな役割を果していることに、今更ながら実感した次第である。

一市民として体育に、レクに、ボランティアに、そしてささやかな町内会での活動に参加し、ひそやかなPRの戦士として市民との融合を図り、努力している人々に心から感謝の念を捧げる

第一科広報陸曹 一等陸曹 堀田 三亥



オリエンテリング

講習会参加所見

最近特に青少年の健全育成について、地域社会において非常に強調されていることはすでに皆さん御承知のとおりですが、特にスポーツを通じて、青少年に健全性を養うことに力をそそいでおりますが、その指導者となる人材が少く指導面に多くの欠陥を生じている現状です。このようなことから、近年著しく普及し始めたオリエンテリングについても指導者養成に道市町村の教育委員会等で力を入れていくところです。私も五月十四日十五日この講習会参加を呼びかけられ多岐の時期ではありましたが、地域社会の一助になればと参加しました。参加会場について参加者を見ると五十八才を最年長者に学校長及び高校、少中学校教員それに札幌滝川から自衛官数名も参加（岩見沢からも私の外数名参加）中には女性も参加しており、又指導員講師の中に隊員もおりそれぞれが各地域社会において

LINKS NEWS

自衛隊協力会各地で、総会を行なう。

(十六日栗沢、十八日岩見沢) 二十五日自衛隊協力会連合会理事会在、市内で行なわれ事業決算報告等盛大裡のうちに終つた。

岩見沢駐とん地は、(二十四日二十七日) 北部方面監察隊の会計監査を受け、無事終了した。

各種のボランティア活動の主軸になつていく状況に後し更に、認識を新にしたところだ。

私達も自己啓発の意味も含めながら地域社会の一助となりながら地域社会の各種活動に積極参画し、多種多様な人々と接して話し合い、社会奉仕の一助となりながら自己の家庭子供の健全育成に一歩ずつ進めたいと思ひながら今度の講習会を終了して来ました。

詳しい説明は除きますが、OLは自衛官にとつては、最適なスポーツでありなお我々の習得している技能をそのまま生じて指導しうる種目であることを補足しておきます。

第三一二器材中隊

一等陸曹 小林 良一

第十二施設群に転入して

三月未だ北国では、春遠し項、不安と淡い期待を胸に、岩見沢の首門をくぐつた。

一面残雪に包まれた隊舎をながめ、今日からこの地で頑張るぞ、

駐とん地モニター(駐とん地司令が定めるテーマに意見提供する人) 十五名が決定した。

雄武町立統合中学校建設用地地事工事の任務にあたりつて(三)四ダンブ中隊、五月二十五日の降雪にもめげず、元気に頑張つていく。

駐とん地の音楽愛好会、ヤングバンド(メイクアップ)が会員を募集している、希望者は本部隊駐とん隊長まで

と胸に響いた。隊員の発らつとした姿、又酷寒に耐える為の中隊一丸となつて、黙々と体力づくりの一生涯懸命頑張つていく姿を見て、悔もやらねば、と痛感した。

隊にもあるように、那に入れば郷に従えと言葉に、中隊の一員として、陸曹として、精一杯勤務をしたい。

第三三五中隊

三等陸曹 田崎敏一

「鳥」たちは今、

どうしているだろう！

バードウイークは過ぎました。私が親しんだ、というよりいじめで遊んだ鳥たちのいくつかを思い出してみたいと思います。

スズメ：警衛所にも巣があり、カラスと共に悪鳥のようにいわれていますが、戦後の食糧不足時、竹やぶのねぐらのスズメを網で、あるいはわカゴで、レンジで捕まえてはヤキ鳥となつて胃袋に入つていつたものです、そのスズメも今、子を育てている時は害虫を食べ成鳥が米を食べるのに比し何倍もの益鳥として人間社会に役立つていそりです。

モズ：モズの子は、頭デツカチであまりカツコ良くはありません。気が荒くてカミ付きます。でも上手に育てて秋、放してやると来春その家の近くで巣をかける。それを育てて又放してやる。その中にはエサをやるのを忘れて何度死なせたか数知れず、遊びの少なかつた昔なつかしくも思い、声や気性に似合ふ人馴れするモズ

を可愛くも感ずるこのごろです。ミンサザエ・日本一小さい鳥で有名ですが、小川の石垣や草むらやチ、チ、チ、と鳴きながら手に取れるぐらゐまで近くに飛来そんなミンサザエを捕まえようと網を持つて走り回つて遊んだ。結局捕えることも果を見付けることもできなかった。今もきつと家の近くに飛来相変わらず、チ、チ、チと鳴いていることでしょう。

そのほか、カラス、トビ、ウグイス、ヒバリ、ホオジロ、メジロ、シジュウカラ、ヤマドリ、キジ、ヒヨドリ、マヒワ、ヨシキリ、セキレイ等と遊び、育て死なせたい出がいつばいですが、今その鳥たちは、住み家をだんだんと狭められていくことでしょう。これからは声を聞き、見つめて愉しみたいものです。

本部中隊 一等陸曹 新田 竜三

愛 何と暖かくさわやかな響きをもつた言葉であろうか。若い男女の愛、親子の愛、兄弟の愛、又、同僚愛等愛にもいろいろあるが、これ程人の心に一明の光を射すような言葉はないのではなからうか、混迷する昨今、総べて何かかゆがめられ、正しきこと、真理が押しやられて、権力や経済力或は、政治力の強いものだけの社会になつてきた感じがしないわけでもない、弱肉強食の特異な現象？ 或いは誇りかもしれないが、正しいこと、間違いないことが余

り前面に出てこないこの世の中がおそろしい気もする。真理を真理と判断出来る心と慈しみの心があつたなら、どんなに住みよい社会になるだろうか。

愛ということと一見前述と何の関係性もないように感じるが、掘りさげてみると愛ということに帰一するのではないだろうか。

自衛隊における服務にしてみても、悪しきことは悪いという真の愛情をもつて互いに切磋たく磨できたなら素晴らしい部隊が誕生するのだが、

愛・愛・愛・日常の生活の中にこの素晴らしい愛の言葉を大切に、他人の幸福を願ひ、ふんだんに愛の行動を起こしたいものだ、その中に明るい相強な部隊造りができたなら……

精神的ゆとりがあり熱い血潮が通い合う、生活を乞い願つて。

第三三六中隊 一等陸曹 加藤和美

編集後記

先日、町を歩いていたら子供が、道路でキャチボールをしていた。坊や、道路でのキャチボールは危ないよ、といつたら、おじさん、人の事、心配するより自分の事を心配しな、と言われた。

今はこんな世の中か？ どうなつてゐるのかな……

悪い事をしてゐるのみならず、みんな注意しあおう。

あなたの地域、職場の情報、今話題になつてゐることなどお知らせして下さい。

もちろん投稿も歓迎します

司令業務班 西畑